

# 令和8年度学校自己評価システムシート（県立芸術総合高等学校）

目指す学校像	学芸を共に高め合い、芸術文化を担う人材を育成する高校
--------	----------------------------

重点目標	1 芸術的表現力と共通教科の学力向上を目指す意力の育成 2 芸術文化を担う人材としての人間性と社会性の獲得 3 芸術系進学重視型専門高校としての期待に応える進路実績の確保 4 芸術文化の発信による地域社会の活力づくりの推進
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

学校自己評価					年度評価（月日現在）		
年度目標					評価項目の達成状況		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	達成度	次年度への課題と改善策	
1	<b>■現状</b> ・県内唯一の芸術学科のみの専門高校として、第一線で活躍する外部講師や関係機関等と連携しながら高度な芸術教育を展開し、生徒一人一人の個性と能力を最大限に引き出すための教育活動を推進している。 ・共通教科（数学・英語）の少人数授業の実施や、補講、課題等によるきめ細やかな学習指導を展開している。 <b>■課題</b> ・芸術専門科目と共通教科目のいずれも意欲的に取り組む生徒の育成を行う。1人1台端末の利用を促進しロイロノートのさらなる活用により個々の学習状況に応じた学習活動の自学自習を一層推進させる。選択科目の構成に改善が必要である。 ・評価方法の検証の継続及び改善とともに、学力の向上に向けた取組を更に推進する。	学習指導要領が目指す資質・能力の獲得に向けた授業の工夫・改善  主体的な学習及び学力向上に向けた取組の推進	①生徒のニーズに合った科目が選択できるよう、教育課程の一部を柔軟に見直す。 ②教員間による授業見学や研究協議等の実践をより一層進める。 ③生徒の「主体的・対話的で深い学び」を深化させた授業を実践する。	①学科間をまたいだ授業選択が効率よく編成できたか。 ②授業の工夫・改善を行うことができたか。 ③協働的な学びを通じた生徒の変容が確認できたか。			
2	<b>■現状</b> ・学校生活における明確な目的意識を持つ生徒が多く、生徒・保護者が学校に満足している一方、心のケアの必要性も垣間見れる。 ・文化祭や体育祭等の学校行事や各学科の教育活動において、多くの生徒が主体的に行動している。 <b>■課題</b> ・自立する心や責任感、他者への思いやり、社会貢献の精神など、芸術分野における将来のプロとしての意識や基盤を醸成し、人間性を磨き社会的成長を図る取組を進める。 ・学科や年次を超えた交流による合同作品の作成、地域との交流を積極的に進める。	芸術文化を担う人材として幅広い教養と、社会に通じる協調性やたくましさの向上	①「芸術文化を担う人材」の育成を軸とした授業や学科活動、部活動等の状況を踏まえつつ実践する。 ②カウンセラーと連携した心のケアなどの継続とともに、社会的なマナーやルールを尊重する態度、自立する心や責任感等を定着させる。 ③クラスでの主体的な活動をベースとし、学科、年次を超えた生徒同士の結びつきの中での創作活動を促す。	①芸術文化を担う人材像のイメージが学校内外でより共有されたか。 ②カウンセラーと連携した心のケアを含めた生徒指導により、社会的なマナーやルールを尊重する態度、自立する心や責任感等を定着させたか。 ③クラスでの主体的な活動をベースとし、学科、年次を超えた生徒同士の結びつきの中での創作活動を行うことができたか。			
3	<b>■現状</b> ・芸術系大学等への進学希望者が大多数であり、芸術系の私大を中心に、9割弱の生徒が現役で進学している。一般受験に向けての体制の強化も必要である。 ・生徒の多様な進路希望に対応するための環境を整えている。 <b>■課題</b> ・大学入試等の状況について引き続き情報収集し、組織的な進路指導を進める。 ・入試の変化を見据えつつ補講を効果的に行うとともに、長期的な視点で進路指導に当たる。	生徒一人一人に即した目標を明確に設定し、計画的・継続的に学習を支援する取組の更なる推進	①全職員による組織的な進路指導を行うため、学科・年次が連携して情報共有を図る。 ②各年次におけるガイダンスや芸術系大学進学のための実技試験対策や受験科目の補習・補講等を更に充実させる。 ③各界の著名人や卒業生による講演などを検討し、生徒の進路意識向上に繋げる。	①補習や課題配信、自学自習等の取組を進路指導として連携させて実施できたか。 ②各年次におけるガイダンスや生徒のニーズにあった補習・補講等を実践し、進路実現につなげたか。 ③各界の著名人や卒業生による講演などが検討でき、生徒へ効果的に還元できたか。			
4	<b>■現状</b> ・地域や関係機関と連携しながら校内外で生徒が様々な芸術文化活動に取り組んでいる。ホームページ・インスタグラムの活用と併せて、地域社会への学校の魅力のさらなる浸透をめざしている。 ・意欲的、計画的に生徒募集に取り組んでおり、一度来校した生徒のリピーター定着度の向上に取り組んでいる。 <b>■課題</b> ・本年度の中学生数的大幅減少を踏まえ、本校の知名度・認知度をより一層高めていくための手段や方法を検討し、生徒募集定員の確保をめざす。 ・生徒による地域社会との芸術的活動の一層の推進を継続・発展させ、更なる生徒募集の取組を進める。	志願者倍率の向上に向け生徒募集に繋がる効果的な情報発信ができるように、積極的にアピールし、全校体制で本校の魅力を増やす	①地域との連携による発表をはじめ、在校生による学校紹介や発表の機会を取り入れた学校説明会や体験入学を実施し、新規の中学校や在校生がいる中学校からの受検生確保につなげる。 ②各学科の生徒募集のデータ分析を進めるとともに、生徒によるインスタグラム発信の機会を増やす。 ③中学生だけでなく、小学生にも対象を広げ、各ワークショップ等の実施や、地域における活動により本校の認知度を高め、志願者増につなげることができたか。	①在校生による学校紹介や発表の機会を取り入れた学校説明会や体験入学を実施し、新規の中学校や在校生がいる中学校からの受検生確保につなげられたか。インスタグラムのフォロワー数が増えたか。 ②各学科のデータ分析をさらに深化させ、生徒によるインスタグラムの発信が効果的に進められたか。 ③児童、生徒を対象とした各科ワークショップ等の実施や、地域における活動により本校の認知度を高め、志願者増につなげることができたか。			

学校関係者評価
実施日 令和9年 月 日
学校関係者からの意見・要望・評価等